

## ～第 100 回きぎょう講習会「経営者の思い込みと若者のホンネ」関連コラム～ 企業と個人の両者が前向きになれる「退職」「転職」とは？

前号の LTR Voice では、第 100 回きぎょう講習会（※）「経営者の思い込みと若者のホンネ」の開催レポートや、アンケート結果に基づくコラムをご紹介しました。今回は、当日ファシリテーターを担当した特定社会保険労務士の山崎 香織氏とともに「退職」「転職」について考えてゆきます。

（※）きぎょう講習会：年 6 回、企業の経営者、人事・総務担当者の方々を対象に、ビジネスや日常生活に役立つ旬なトピックをお届けしています。

※LTR では本講習会の開催にあたり、アンケートを実施（調査対象／経営者、中堅・ベテラン社員 31 人、大学生 33 人、新社会人・20 代社員 34 人）。

アンケート結果は  
こちらから→



### 転職は当たり前の時代に？

#### 若手社員の 7 割が「転職を考えたことがある」

第 100 回きぎょう講習会のテーマは、「経営者の思い込みと若者のホンネ」。まさに最近、クライアントである経営者の方から「若手社員の考えていることが分からない」という声を聞くことが増えました。つい先日、ある中小企業の社長から「入社 3 年目でバリバリ働いていた社員から、突然『会社を辞めたい』と言われました。新たなプロジェクトを任せたいと思っていたのに、決意は固いようです」といった話が……。

実際に若い世代の皆さまは、「退職」「転職」をどう捉えているのでしょうか？ アンケートでは、新社会人・20 代社員の 25 人（73.5%）が「転職を考えたことがある」と回答。「他にやりたい仕事があるから」（40%）、「自分がレベルアップできるスキルが身につかなさそうだから」（36%）、「労働時間や労働条件に不満があるから」（36%）と、自身の成長を考えるポジティブな理由と、働く上での条件面のすり合わせを求めるネガティブな理由が上位となりました。

では、きぎょう講習会でどんな“声”があったのか？ 大学 4 年の女性は、「私は、「転職をしない」を前提に就職先を選びましたが、周囲には“転職ありき”で就職活動をしていた友人も！ まずはあらゆる経験を積んでから本命にチャレンジするようです」とのこと。

2 度の転職経験がある 20 代の男性は、「辞めるとき『いつでも戻ってきて』という有難い言葉をもらいました。結果的に 1 社とは仕事を請け負う関係で、今もつながっています。転職はネガティブなイメージを持たれがちですが、いろいろな関わり方がある。再び働ける風通しの良さも大事なのでは？」と、自身の経験も交え話してくれました。

#### 経営者は「退職」とどう向き合う？

今回のリアルな“声”を聞いて、私はどう思ったか？ 最も強く感じたのは、働くにあたり「一つの組織に執着しない方が

増えた」ということ。時代の変化とともに働き方も多様になった今、自分にとってベストな環境を求めて動くのは、自然な流れなのでしょう。

だからこそ、私たち経営者も変化する必要があります。正直なところ、私もかつては「会社を辞めたい」という社員がいると、ショックを受け、寂しい気持ちがありました。しかしベースにあったのは、「本人が本気で考えて出した答えなら、受け止めよう。この先の人生を応援しよう」というもので、その考えは今も変わりません。

そんな中で大事なものは、いつ誰が辞めても「一喜一憂しない」こと。「企業には変化が付きもので、人も当然入れ替わる」という考えを念頭に置く。さらに業務マニュアルの質を上げるなど、システム面でもしっかりした体制を作ることが、より重要になると思っています。実際に私の事務所でも、今年は動画マニュアルの作成を進める予定です。

そして経営者はもちろん、全社員にもこの考えをシェアし、共通認識を持つこともポイントです。「せっかく教えたのに辞めるなんて……」と気を落とすスタッフの姿を、私も幾度となく目にしました。退職者が出るたびに、働くメンバーが力を失うのは、非常に残念です。そのためにも「人に依存しない組織」を、改めて見直す時間が必要かもしれません。

「退職」「転職」は、人生における大きな出来事です。そんな人生の岐路に立ったとき、旅立つ側も見送る側も気持ちよく前向きなスタートが切れる。これからも、そんな環境を作ってゆきたいと思います。

（特定社会保険労務士 山崎 香織）



山崎氏の事務所 HP はこちらから→